



進学と就職を考える② 四年制大学・短期大学進学を選択する意味

前号では「生涯賃金の差」と「待遇と機会の差」を中心に、就職について考えました。今回は四年制大学・短期大学への進学を選択する意味について考えます。

文部科学省の2023年度の学校基本調査によれば、全国平均の大学進学率は57.7%。前年比1.1ポイント増加し、8年連続で最高記録を更新しました（千葉県は62.5%）。

厚生労働省の調査によると、進学理由としては「大学で過ごすこと自体が人生経験として重要だと思ったから」が74.4%と最も高く、次いで、「先行き不安な時代に大学くらい出ていないといけないと思ったから」が73.1%となっています。キャンパスライフそのものが人生の財産になるという考えですね。ただ、4年間の大学生活を楽しむために数百万円のお金をかけるというのは、ごく一部の裕福な人の考え方のはずです。

進学する意味を考えるのであれば（前号でも述べたように）大学に進学することで就職先の範囲（業界・業種・職種）が広がる、つまり職業選択の選択肢が増えることに目を向けたいと思います。そもそもその職業に就くために大学・短大の卒業が必要だ、というケースも相当数ありますし。

さて、大学・短大への進学には相応のお金がかかります。これも考えどころです。

学部学科や一人暮らしの有無、またその地域にもよりますが、基本的にはトータルで500～1000万円の資金が必要になります。大変な金額ですね。

それでも大学進学を選択する人が多いのには勿論理由があります。

「4年間に500～1000万円のお金を投資して、40年をかけて5000万円の利益を少しずつ受け取る。」これが大学進学を選択する基本的な考え方です。こんな利率の良い投資は教育以外にはあり得ません。奨学金を使う場合には、背負う借金が自分の思いとつりあっているか、よく考えてください。奨学金による進学は有効な手段ですが、その後の人生で借りたものを返さなければなりません。

「自分の人生に親のお金を注入してもらおう。そして、その結果自分の社会的な立場と収入を高くする。」皆さんの大学進学はそうようにして成り立ちます。親御さんを大事にしないといけませんね。

